作成日 2000 年 7 月 1 日
改訂日 2024 年 10 月 22 日

安全ﾃﾞｰﾀｼｰﾄ

1．化学品及び会社情報

化学品の名称（製品名）： Hi-Mic-1045
供給者の会社名称、住所及び電話番号
供給者の会社名称： 日本精蝋株式会社
住所： 東京都中央区京橋 2-5-18　京橋創生館 10 階
担当部門： 東京本社
電話番号： 03-3538-3065
FAX 番号： 03-3538-3095
緊急時の電話番号： 0834-84-0371（品質管理部 品質管理課）
整理番号： M-01-1

2．危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

健康に対する有害性： 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性　区分 2B
特定標的臓器毒性（単回ばく露）　区分 3(気道刺激性)

(注)記載無き GHS 分類区分：区分に該当しない / 分類できない

GHS ﾗﾍﾞﾙ要素
絵表示又はｼﾝﾎﾞﾙ：

注意喚起語： 警告

危険有害性情報： 眼刺激
呼吸器への刺激のおそれ

注意書き：

【安全対策】
取り扱い後は手をよく洗うこと。
粉じん、ﾋｭｰﾑ、蒸気、ｽﾌﾟﾚｰの吸入を避けること。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
【応急処置】
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にｺﾝﾀｸﾄﾚﾝｽﾞを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は医師の診察/手当てを受けること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。
【保管】
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
【廃棄】
内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

３．組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：　化学物質
化学名又は一般名：　固形ﾊﾟﾗﾌｨﾝ
成分及び含有量

成　分	化学式	含有量 wt. %	官報公示整理番号 化審法・安衛法	CAS 番号
固形ﾊﾟﾗﾌｨﾝ ﾏｲｸﾛｸﾘｽﾀﾘﾝﾜｯｸｽ	C_nH_{2n+2}	100	(8)-414・既存	63231-60-7

４．応急措置

吸入した場合：　空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：　多量の水と石けん（鹸）で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。

溶融ﾜｯｸｽの場合：　皮膚に付着した部分を水に浸し冷やす（氷水及び氷ﾊﾟｯｸをあてがうのも有効である）。しかし、身体の 10 %以上を火傷した場合はｼｮｯｸを与えることがある為、前述の冷却処置を行なわず、速やかに医師の診察を受ける。

眼に入った場合：　水で数分間注意深く洗うこと。次にｺﾝﾀｸﾄﾚﾝｽﾞを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合：　口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候及び症状：
眼、鼻、喉を刺激する。

５．火災時の措置

適切な消火剤： 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ｶﾞｽ、乾燥砂類
使ってはならない消火剤 ： 棒状放水
特有の危険有害性： 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
激しく加熱すると燃焼する。
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のｶﾞｽを発生するおそれがある。
特有の消火方法： 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護： 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣（耐熱性）を着用する。
消火作業は可能な限り風上から行う。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：
関係者以外は近づけない。
適切な保護具を着用する。
こぼれた場所はすべりやすいため注意する。
環境に対する注意事項： 漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。
下水、排水中に流してはならない。
封じ込め、浄化の方法及び機材：
掃き集めて、容器に回収する。
乾燥した土､砂､不燃材料に吸収もしくは覆って容器に移す。
二次災害の防止策： 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
全ての発火源を取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い: 3,000 kg 以上の量を貯蔵又は取り扱う場合には、市町村条例に定められた基準を満足すること。
技術的対策：
局所排気、全体換気: 排気､換気設備を設ける。
安全取扱注意事項： 取扱中は飲食､喫煙してはならない。
粉じん､ﾋｭｰﾑ､蒸気､ｽﾌﾟﾚｰの吸入を避ける。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用する。
眼に入らないようにする。
保管：
適切な保管条件： 日光から遮断し、換気の良い場所で保管する。
避けるべき保管条件： 酸化剤から離して保管する。
固体で保管する場合、直射日光を避け、冷暗所で保管する。
溶融状態で貯蔵する場合は高温過熱にならないように注意する。
容器包装材料： 溶融状態で貯蔵するﾀﾝｸ、容器の材質はｽﾃﾝﾚｽ鋼が適している。
銅および銅合金は品質劣化の原因となる。

８．ばく露防止及び保護措置

管理濃度： 設定されていない（労働省告示第 26 号 作業環境評価基準）

許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）：
日本産業衛生学会： 設定されていない。
ACGIH TLV-TWA 2 mg/m^3 ﾋｭｰﾑとして
ACGIH（米国産業衛生専門家会議）TWA（8 時間加重平均）：
ﾊﾟﾗﾌｨﾝ ﾜｯｸｽ ﾋｭｰﾑの許容濃度 2 mg/m^3
（ﾋｭｰﾑは蒸気が凝縮してできた微粒物質）

設備対策： 排気､換気設備を設ける。
洗眼設備を設ける。
作業場ないし貯蔵場には安全ｼｬﾜｰを設置する。
高熱取扱いで、工程で粉じん､ﾐｽﾄ､ﾋｭｰﾑが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具
呼吸用保護具： 換気が不十分な場合、適切な呼吸器保護具を着用する。
手の保護具： 保護手袋を着用する。
推奨材質：非浸透性もしくは耐化学品ｺﾞﾑ
眼及び顔面の保護具： 保護眼鏡/顔面保護具を着用する。
皮膚及び身体の保護具： 保護衣を着用する。

９．物理的及び化学的性質

物理状態：	ろう状固体
色：	淡黄色～黄色
臭い：	わずかな臭気あり
融点/凝固点：	75 ℃
沸点又は初留点及び沸点範囲：	ﾃﾞｰﾀなし
可燃性：	ﾃﾞｰﾀなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：	該当しない
引火点：	313 ℃
自然発火点：	ﾃﾞｰﾀなし
分解温度：	ﾃﾞｰﾀなし
pH：	該当しない
動粘性率：	該当しない
溶解度	
水に対する溶解度：	不溶
n-ｵｸﾀﾉｰﾙ/水分配係数（log 値）：	log Pow > 6
蒸気圧：	ﾃﾞｰﾀなし
密度：	0.80 g/cm^3，at 100 ℃
相対ｶﾞｽ密度：	該当しない
粒子特性：	ﾃﾞｰﾀなし

注）性状は、いずれも代表値を示す。

１０． 安定性及び反応性

反応性：	自己反応性なし。
化学的安定性：	通常の条件下で安定。
危険有害反応可能性：	酸化剤、強酸類と反応する。自己反応性なし。
避けるべき条件：	長時間加熱、火炎、発火源
混触危険物質：	酸化剤、強酸類
危険有害な分解生成物：	ﾃﾞｰﾀなし

１１．有害性情報

急性毒性

経口毒性成分ﾃﾞｰﾀ：	ﾗｯﾄ LD_{50}＞5000 mg/kg
経皮毒性成分ﾃﾞｰﾀ：	ｳｻｷﾞ LD_{50}＞3600 mg/kg
皮膚腐食性/刺激性：	ｳｻｷﾞ試験で not irritating と slightly irritating ﾋﾄ皮膚刺激性試験の結果では not irritating
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：	ｳｻｷﾞで slightly irritant 及び mild irritant 区分 2B
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	ﾃﾞｰﾀなし
生殖細胞変異原性：	in vivo 試験のﾃﾞｰﾀなし Ames 試験(in vitro 変異原性試験)で陰性
発がん性：	IARC 該当せず ACGIH 該当せず
生殖毒性：	ﾃﾞｰﾀなし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：	気道刺激性 区分 3
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：	ﾃﾞｰﾀ不足
誤えん有害性：	ﾃﾞｰﾀなし

１２．環境影響情報

生態毒性：	水生毒性ﾃﾞｰﾀなし
残留性・分解性：	ﾃﾞｰﾀなし
生体蓄積性：	ﾃﾞｰﾀなし
土壌中の移動性：	ﾃﾞｰﾀなし
ｵｿﾞﾝ層への有害性：	ﾓﾝﾄﾘｵｰﾙ議定書の付属書には列記されていない。

１３．廃棄上の注意

廃棄物の処理方法：	内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

１４．輸送上の注意

国連番号・品名・国連分類・容器等級：	非該当
特別の安全対策：	3,000 kg を超えて移送する場合にはｲｴﾛｰｶｰﾄﾞを携行すること。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。

ﾊﾞﾙｸ輸送における MARPOL 条約附属書 II 改訂有害液体物質及び IBC ｺｰﾄﾞ：
供給された状態の製品には非該当。

１５．適用法令

労働安全衛生法：　名称等を表示すべき有害物（法第 57 条、施行令第 18 条）
令別表第 9、固形ﾊﾟﾗﾌｨﾝ（2025 年 3 月 31 日以前）
規則別表第 2、固形ﾊﾟﾗﾌｨﾝ（2025 年 4 月 1 日以降）
名称等を通知すべき有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2）
令別表第 9、固形ﾊﾟﾗﾌｨﾝ（2025 年 3 月 31 日以前）
規則別表第 2、固形ﾊﾟﾗﾌｨﾝ（2025 年 4 月 1 日以降）
皮膚等障害化学物質等（規則第 594 条の 2）
非該当

消防法：　指定可燃物　可燃性固体類

水質汚濁防止法：
日当たり平均的排水量 50 m^3 以上の特定事業場に適用される排水基準生活環境項目
ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質含有量（鉱油類含有量）： 5 mg/L

海洋汚染防止法：　ばら積み運送：有害液体物質（X 類物質）ﾊﾟﾗﾌｨﾝﾜｯｸｽ
個品運送　：海洋汚染物質（P）に非該当

下水道法：　鉱油類排出規制（5 mg/L 許容濃度）

廃棄物の処理及び清掃に関する法律： 産業廃棄物規制（拡散、流出の禁止）

毒物及び劇物取締法：　非該当

化学物質管理促進(PRTR)法：　非該当

物質登録情報：

TSCA(USA)	有り
DSL(Canada)	有り
EINECS(EU)	264-038-1
ENCS(Japan)	(8)-414
AIIC(Australia)	有り
ECL(Korea)	KE-27787
PICCS(Philippines)	有り
IECSC(China)	有り
TCSI(Taiwan)	有り

物質規制情報	米国	毒性及び危険有害性物質（29 CFR Part 1910 Subpart Z）	物質ﾘｽﾄ に収載されていない。
	EU	危険有害性物質の調和された分類・表示 CLP 附属書VI 表 3.1/3.2 ((EC) No 1272/2008)　並びに 危険物質指令(DSD) 附属書 I （67/548/EEC）及び 危険調剤指令(DPD)(1995/45/EC)	物質ﾘｽﾄ に収載されていない。

中国	危険化学品目録(2015 年版)	物質ﾘｽﾄ に収載されていない。
韓国	化管法 及び 化評法(K-REACH) 規制物質	物質ﾘｽﾄ に収載されていない。

１６．その他の情報

参考文献

1) ICSC(J) (2003)：国際化学物質安全性ｶｰﾄﾞ ﾊﾟﾗﾌｨﾝﾜｯｸｽ ICSC 番号 1457
2) 厚生労働省：GHS 対応 ﾓﾃﾞﾙ SDS 固形ﾊﾟﾗﾌｨﾝ
3) IUCLID (2000)
4) RTECS (2008)
5) 農薬安全情報 (1992)
6) JECFA (1993)
7) JECFA (2003)
8) EHC20 (1982)
9) PATTY 5th (2001)
10) 2023 許容濃度等の勧告（日本産業衛生学会)
11) 2024 TLVs and BEIs. (ACGIH)
12) NITE-化学物質管理分野：GHS 分類結果 ID21B3029 固形ﾊﾟﾗﾌｨﾝ（平成 21 年度)
13) P.Shubik et al.：Toxicol Appl, Pharmacol., Suppl, 4, 62 (1962)
14) A.O.Hanstveit：TNO Report, Netherland orga, for Appl, Resear (1990)
15) Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (6th ed., 2015), UN
16) Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN
17) Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)
18) 2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)
19) JIS Z 7252 (2019)
20) JIS Z 7253 (2019)

災害事例

情報なし

特別注意事項

記載内容は現時点で入手できる資料、ﾃﾞｰﾀに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。記載内容は情報の提供であって、保証するものではありません。